

# 鞠智城と古代西海道の官衙・交通路

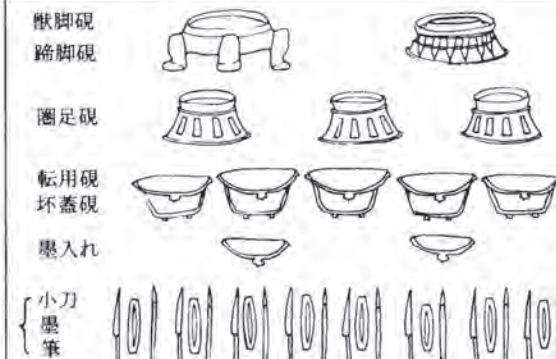
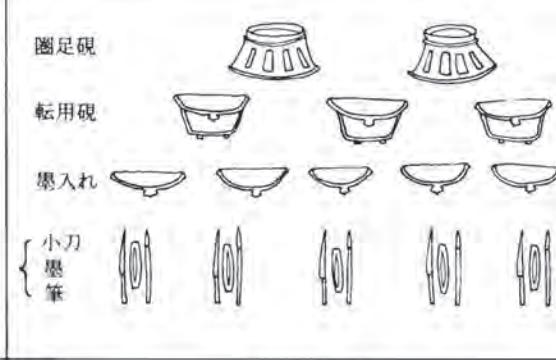
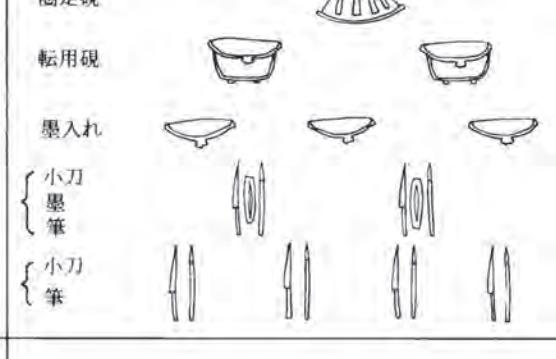
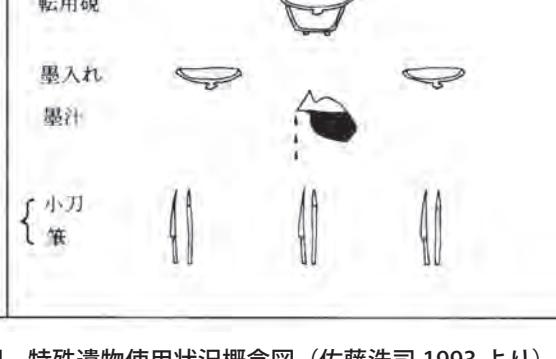
堀内 和宏

はじめに  
古代における鞠智城の歴史的意義とあり方を新たな視点から明らかとするためには、研究が蓄積した大宰府・福岡平野以外の北九州地域の様相に着目して、周辺地域の同時期の遺跡に関する発掘調査

成果を見直し、古代官道ルートと地方行政機構という観点から個々の官衙関連遺跡の性格を相互に比較対照していくことが有用である

と考える。その中で、古代律令国家にとつての肥後と鞠智城の意義を明らかすることが本稿の目的である。

具体的には、既に対外関係史の観点から指摘（石井二〇一三）された観点ではあるが、交通路の問題として論究が十分とは言えない有明海の海上交通を介して肥後と一体の歴史的世界を形成した肥前との歴史的関係を多面的に分析する。「火の国」は肥後と肥前に令

宮都（平城宮・中央官衙 大宰府クラス）	熊脚硯 蹄脚硯 圈足硯 転用硯 坏蓋硯 墨入れ 小刀 墨 筆	
地方官衙（国府クラス）	圈足硯 転用硯 墨入れ 小刀 墨 筆	
地方官衙（郡衙クラス）	圈足硯 転用硯 墨入れ 小刀 墨 筆 小刀 筆	
地方出先官衙 (郡衙の付属施設・郷庁クラス)	転用硯 墨入れ 墨汁 小刀 筆	

第1図 特殊遺物使用状況概念図（佐藤浩司 1993 より）

軸に明らかに  
制的な側面を  
れたかを、法  
海道の交通を  
前提に構築さ  
行政組織が西  
ような軍事・  
紀後半の对外  
的な緊張を背  
景として、律  
令制下でどの  
である。七世  
割されたもの  
制国として分  
割されたもの  
である。七世  
紀後半の对外  
的な緊張を背  
景として、律  
令制下でどの  
ような軍事・  
行政組織が西  
海道の交通を  
前提に構築さ  
れたかを、法  
制的な側面を  
軸に明らかに

する。同時に古代の官衙・関連遺跡の分布状況を、特殊遺物（定型硯・緑釉陶器・石帶など）を軸に明らかとしつつ、当該期の周辺遺跡の状況を木簡・墨書・刻書土器など、出土文字資料に限らず、遺構・遺物から成る発掘成果を多面的に活用して地域社会の状況を示すことが研究の最終的な目的であり、本「特別研究」の中核は基礎段階としての特殊遺物の出土地一覧の作成（表）と遺跡位置の表示（第4図）にある。出土遺跡の類型として（ア）国府・郡家など地方官衙（イ）その周辺遺跡、交通関係官衙、地方寺院（ウ）官道駅路沿い集落（エ）港湾（オ）須恵器窯跡（陶硯のみ）に集約が可能である（川畑・中尾・中川ほか二〇一七）。次いで硯がどう律令支配の中で用いられ、その出土状況が遺跡の官衙としての性格を示す所以を述べる。これを踏まえ、肥前と肥後の関係を軸に官衙と交通路の配置を考える。

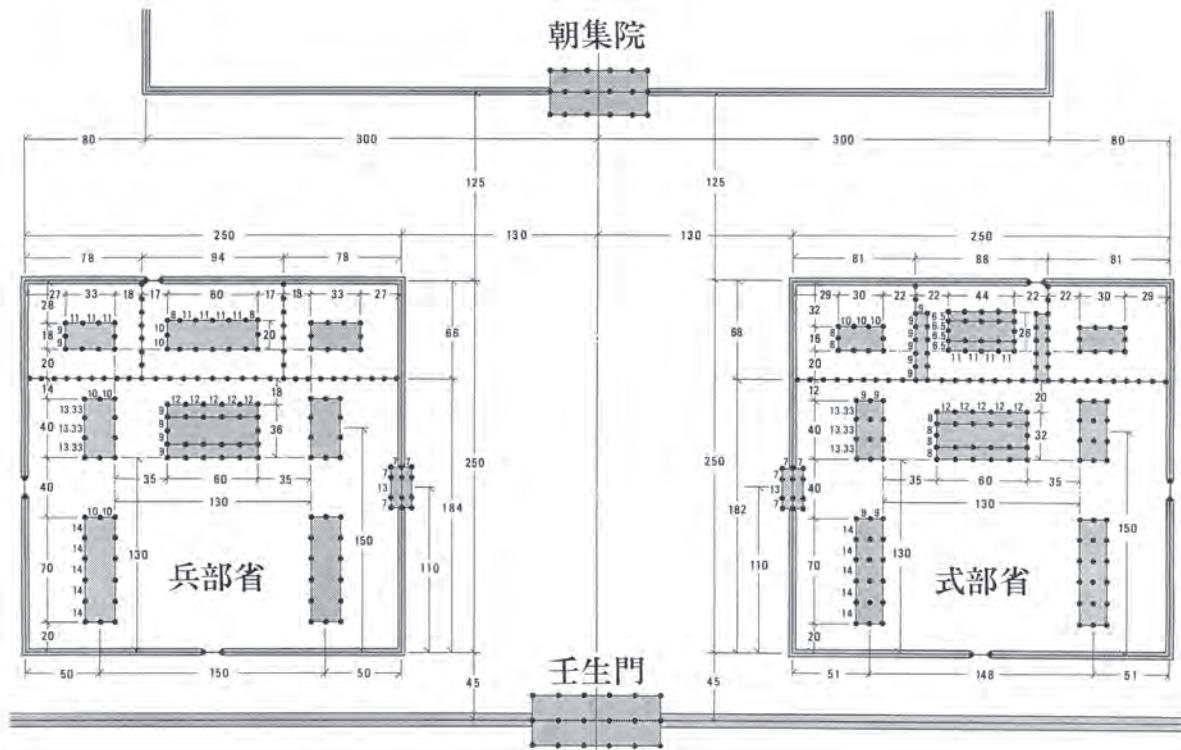
筆者は、肥前国彼杵郡の郡家関連遺跡である竹松遺跡の十万m<sup>2</sup>以上の規模の発掘調査と遺物・記録整理、報告書作成に携わる中で、官衙と集落の中で「末端官衙」「交通官衙」などの便宜的な呼称で呼ばれてきた遺跡について、統一的な視点から遺跡の類型を分析することの必要性を痛感した。北部九州から九州地域全般での特殊遺物類例の網羅的収集（緑釉陶器・石帶・硯など）から得た古代律令制下の遺跡の分析成果、古代史の文献史の研究の知見を組み合わせる中で地域史の新しい側面が明らかとなるものと考へてゐる。

#### 官衙に関わる特殊遺物（表参照）

ここでは①円面硯以下の陶製定型硯、②石帶・帶金具（鎔帶）③緑釉陶器の出土の有無を基準として挙げる（二）。文字文化の普及と

いう観点も合わせて考えれば、木簡や墨書・刻書土器など出土文字資料が最右翼に挙げられようが、既に西海道官衙研究会や明治大学古代学研究所などの手で集成が行われてゐるため、本研究で参考に留めることとする。九世紀以降の遺跡に関するでは越州窯青磁など紀については遺跡の弁別のために有効でないため、参考情報に留める。①～③について付表にまとめた。なお、かつて木崎康弘が熊本県球磨郡あさぎり町（旧須恵村）須恵堂園所在の堂園遺跡の古代の木蓋土坑墓の副葬状況を下に、十世紀初めの在地社会では国産緑釉陶器が発色の悪い普及品の大宰府分類II類などの越州窯青磁珍重されていた状況を論じてゐる（木崎一九九七）点は留意しておきたい。

緑釉陶器に關しては、個体レベルの情報まで北部九州（福岡・佐賀・長崎・熊本県）の事例の集成は既に行つた（堀内二〇一七）。石帶についても既に集成を行つた（堀内二〇一七）所である。銅製鎔帶についても、遺跡の備考で適宜補完を図つた。付表に見るようには石帶や緑釉陶器の出土の事実が官衙遺跡たるべき十分条件ではない。伝世によるものか、佐賀県内の104・117・125のように十一・十二世紀を主体とする遺跡から石帶が出土してゐる例もある。しかし定型硯については（オ）は別にして（ア）（イ）が中心であり、（ウ）については発掘調査範囲の制約などにより遺跡の性格が十分に捉えられていないためと考へられる。硯がどう古代の行政の中で用いられ、官僚制支配の中で有した意義が明らかに出来れば、第1図で示されたセット関係により特殊遺物の出土状況と遺跡類型はリンクすることとなる。



第2図 奈良時代後期の平城宮内式部省曹司庁・兵部省遺構配置図（小澤毅 1993 より）

### 陶硯と律令支配体制

本来は地方官衙が有する支配秩序を明らかにするために、地方官司ごとの具体的な行政マニュアルが現存していれば結構であるが、儀制令十八元日国司条以上の情報については大宰府レベルの官衙でさえ明らかではない。地方官衙における儀礼の構造を明らかにするための構造主義的な方法論の提起はある（井上亘二〇〇三）が、具体的には検討はほとんど進んでおらず、郡符木簡などの出土文字資料の助けを借りる以外は「兵範記」などの記事が国司にまつわる儀礼を知る手段として活用されている研究状況である。そのため、迂遠な方法であるが、中央の官司運営に関する、いわば古代の官人制の根幹的史料の中から硯の持つ意義を窺うしかない。

陶硯が文書行政を通じた地方行政において不可欠な器種であるのみならず、古代国家が郡司を通じて支配するための権力機構を表現するモノであったことについては、以下に示す二史料が存する。いずれも、律令官人制秩序についてその任命システムの解明の中から制度に内在する構造を明らかにするために注目されてきた史料であるが、古代官司が行う政務儀礼の中で硯の有する意義を照射するものとして活用することが出来るものと考へる。先ず郡司の人選に関する郡司試練の史料である。朝堂院南東の式部省曹司（第2・3図参照）がその式場となっている。「延喜式」も「弘仁式」もほぼ同文である。九世紀前半、郡司任用に関する譜第主義が復活した時期の状況が反映されている。

### 【史料1】延喜式部式下三六試諸国郡司主帳以上条

- ① 「事前準備、名簿作成」 諸国銓擬申上大少領并主政帳等、毎

年正月卅日以前集於省一、預一差丞錄史生省掌一、專一當其事一。訖設三輔以下座於省內便處一。令三史生勘一造其簿一、具顯功過一、

在二集限。依二府国解二定二其等第二。但主政·主帳者、卿以下唱試二其身二、不レ召二国司一。

写其名簿、以授省掌。每日召討、習其申詞、案成之後、更写四通、「主政帳写」、「一通」以擬丞以上披覽、二月廿日以前、勘写已訖。省掌預命諸國朝集使參集一。

②「一日目 輔による譜第についての口頭試問」其日平旦、輔以下皆就レ座。省掌置二版位。又預設二国司座。訖輔命レ丞、

丞命レ録、録命ニ史生一、令レ召ニ省掌一。省掌称唯、就ニ版位一。

永命曰「率二候郡司等一參來」。省嘗稱唯退出。先引東海道一國

唱<sub>二</sub>国司<sub>一</sub>、国司称唯就<sub>二</sub>版位<sub>一</sub>。五位先入隨レ召就レ座、録唱起レ座称唯<sub>一</sub>。次唱<sub>二</sub>郡司<sub>一</sub>、依レ次称唯進<sub>二</sub>立使傍<sub>一</sub>。唱了承命侍レ座。

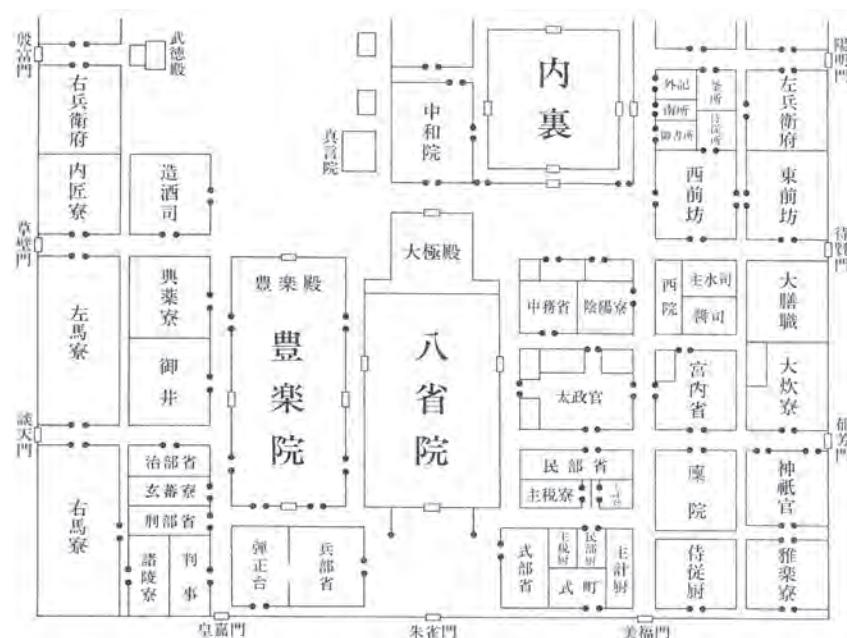
國司稱唯就座。輔命二省掌、令レ申譜第。省掌稱唯伝レ命。郡司俱稱唯依レ次申訖。丞命候レ之。國郡司俱稱唯。省掌引退出。

更引<sub>二</sub>次國<sub>一</sub>入。唱申如<sub>レ</sub>前。六道<sub>一</sub>（除西海道）勘訖、更定<sub>レ</sub>日以申<sub>レ</sub>卿、預命<sub>二</sub>國郡司<sub>一</sub>令<sub>二</sub>參集<sub>一</sub>。

③ 二日目 橿による筆記試験】其日平旦、省掌設二郡司座并硯

於版左右庭（多少隨二人數）。卿以下就座。史生盛（簿四管）、以次進（置於輔以上前及丞座傍）（親王任卿者、錄置卿前）。各有（常儀）。卿命丞曰「令郡司等參入」。（中略）郡司俱稱唯就座。省掌退出。訖他省掌執管、就丞後受問頭、降就郡司傍授之。訖置管於西階上復座。郡司執筆各答其問。隨（了且進納管退出。每道訖、他省掌遞引進如前儀。諸道已訖、省掌進執（盛試狀管）、置（丞座傍）退出。聚其狀書、卿自臨（判等第、隨（狀黜陟（陸奥、出羽、西海道等郡司不レ

郡司候補者の座と硯がセットで式部省曹司の殿庭に置かれ、筆記試験の最重要のツールになつてゐる。このような儀式の場にふさわしいものは円面硯であろう。本儀式を受けて天皇の前で最終的な任官の決裁を受ける郡司読奏の手続きがあり、天皇が平安後期まで



第3図 平安京大内裏官衙配置図（小澤毅 1993より）

任命の儀式が行われる。

畿内郡司の場合は下級官人層と重なり、官人としての資質を大仰な式部試練の場で問う必要はないが、西海道<sup>(1)</sup>の郡司が試練の対象となつていらない点については留意が必要である。西海道では大宰府が国の掾以下と郡領を銓衡することについては、大宝二年三月の制によるもので、惣領—国司—評造の三段階の地方支配を国郡一段階に整理した大宝令制でもなお大宰府のみを唐の都督府相当の行政区画として例外的に存置したこととの整合性をとるためである。須原祥二も推測しているように、大宝律令の施行に伴い評司<sup>(2)</sup>から模様替えしたことを受け、西海道の郡司新任候補者に対しても大宝二年には一度は上京するべく中央から指示が出され、いくらかの混乱があつたことを受けての措置であろう。

大宰府には政庁の南側広場の西に不丁地区官衙、東に日吉地区官衙があり、平城宮東区朝堂院・平安宮朝堂院の南に兵部省・民部省（曹司庁・厨）が設置されていたミニチュア構造を成している。第3図のように、平安宮も平城宮の以上のような構造を持ち越し、広場をより拡大している。式部省曹司は官人制支配の中核の場である。大宰府もそれを模した構造を取る必然性があり、式部試練と同様の方法で郡司候補者を試験し、詳細な結果を式部省に送つて、天皇の裁可を仰ぐ郡司読奏にまわしていたものと考えられる。

須原祥二の検討によれば、奈良時代当初には本儀礼は一日目の輔による面接試験と二日目の式部卿による筆記試験は一体のもので、式部卿自身が当年の郡司任命候補者を一人一人連日口頭試問していくとされる（須原一九九八）。が、詮擬作業の厳密化と煩雑化に伴い、一日目と二日目を分離し、卿の前では道ごとに数十人単位でまとめて

て筆記試験を行う方式に移行したとされる。

宮都の中で口頭試問を行うその場がどこかは、式部卿自らが行うという重要性を考えれば、平城宮前期には式部省の北西側の朝堂院（東区）の一角で行われていたものと考えられる。寺崎保広の指摘にあるように、聖武天皇の平城還都後ほどなく、大内裏内の壬生門北へ入つて右側に、礎石建築の式部省曹司（Y区）が既存の東方の実務空間の民部省厨（Z区）に続けて造られた（寺崎二〇〇六）ことは官人管理に関わる儀式空間の成立として評価すべきもので、郡領詮擬の場も曹司の成立から程なく移動したものと考えられる。

なお、式部省曹司の正門は朝堂院南門と壬生門の間の広場西門と考えられており（寺崎二〇〇六）、選人は庁舎の野外の広場に道・国ごとに並んで順番を待つていたと考えられる。役所の野外で待たせる点は後掲の【史料2】（ア）の規定と同じである。しかしここで触れる郡司の試験の場合は、官庁の間のただの路上ではなく、格別の支配空間が用意されていた。平安京においては、北側に古代律令制国家の最高の儀礼空間である大極殿朝堂院の殿舎群を望み、南側に朱雀門を控えた広場で待たせることに、郡司を全国支配の下に取り込む律令国家の政治的演出が隠されていたと考えられる。国司（の四等官）の監督下に引率され、国・道ごとの試験の間、時間を定めず郡司候補者を待機させるあり方に、律令国家の地方支配のあり方が表れている。式部省の本庁下僚（省掌）から、本来は位階秩序の上で上位の国司の四等官までもが指図を受ける状況を見て、上京した受験者はいかなる印象を持ったであつたろうか。

儀式での硯の用法を示す次の史料は高名な列覧の儀式次第である。式場は『弘仁式』段階では弁官庁、『延喜式』の式部式下二十

列見条太政官曹司である。場所の変化は、古代国家の行政決裁方式が読申公文から文書のやり取りに移行する状況（吉川一九九八）を反映している。なお③④の（）は虎尾達哉の分節（虎尾俊哉編二〇〇〇～二〇一七）による。

### 【史料2】『貞觀儀式』卷九 二月十一日列見成選主典已上儀

①〔省略〕式部・兵部二省による事前の考文作成  
②〔弁官申政・選人の参入〕当日昧且、掃部寮設二省輔已下座於南門外壇上（式部在戸内、兵部在戸外）。輔已下就レ座、（ア）二省省掌預於南門外路、計列諸司專当官人・朝集使及選入等

（式部在東、兵部在西）。大臣就レ座、弁官申レ政。訖二省輔已下起レ座、列立門外路（式部北面西上、兵部北面東上）。干レ時選入以上、以レ次進而列立。爰大臣喚三召使、二声。召使称唯進就レ版。大臣宣「喚式部・兵部」。召使称唯、退出喚レ之。二省輔共称唯。丞代レ之参入就レ版、（式部東、兵部西）。（イ）大臣宣「成選人等將參來」。丞共称唯、退出復レ列。式部輔先参入。次丞・

錄各一人参入就レ版。輔就レ前版。丞・錄取諸司申文并別記、就後版。（ウ）次省掌擎レ版、率選人等、且称容止、入屯立屏内。

③〔係の着座と硯設置〕（1）大臣宣「召レ之」。輔称唯。次丞・錄共称唯。輔先登自西階就床座。次丞・錄登自西階就床子座（輔就東面弁座、弁座在南端）。者、丞・錄就北面座。（2）（エ）史生等捧硯并短策宮、自レ屏以西参入。登自西側階、立

錄傍、転授レ録。録受之授レ丞、丞受レ之転授（衍力）置前机。丞立受硯宮置亦同。訖史生退出、候於屏西南頭。（3）爰輔

起レ座、申云「式部省申久司司乃長上乃某年爾選成留申給」止申。

（オ）訖丞一人捧硯宮、東進至東第四間、北折当大臣座、東折進置机上復レ座。（4）次丞一人捧短策宮、同趨至机前。跪置宮於地、取短策置机上、取宮復レ座。

（5）訖大臣宣「命令喚」。輔起称唯更居、喚丞名。丞起称唯即居。

輔云「令置レ版」。丞起称唯居、喚省掌名。省掌称唯。丞云置レ版。省掌称唯、趨置レ版（自一版位、南六許尺置レ）、復レ列。

④〔列見の次第〕（1）輔云「召レ之」。錄共称唯。錄一人取第一別記「読申。（中略）（2）選人共称唯、北面直立於版東。（3）輔命レ丞云「退給之」。丞起称唯、唱省掌名。省掌称唯。丞命「退出」、省掌称唯転告。選人共称唯退出。省掌一人且称容止、隨選人出、一人留取レ版退出。（4）丞一人取レ宮、進取短籍納レ宮復レ座。（カ）又丞一人取レ硯宮、史生等趨就錄傍、受レ宮退出等、亦如初儀。（5）訖丞・錄自レ上退出。訖輔更就レ版、揖而退出。兵部省亦同。

本儀礼の意義は成選について短冊に上卿の大臣自らが評価を書き入れる所にある。その筆記作業に欠かせない道具が硯であり、儀式の中でも重要な舞台装置を演じている。身体性を通じた漢字文化のあり方（新川一九九九）の一つである。しかも大臣が太政官厅舎正殿の席に着く前に、事前に大臣が使用する硯を大臣の机に用意しておらずはない。大臣が席に着き、選人が殿庭に連れて来られた後に（イ）（ウ）殊更に式部省の史生に命じて硯宮（四）を式場に持参させ（エ）、更に三等官の丞が西階を登つて殿上の大臣の席に硯（五）を設置させる（オ）という点に、官僚制支配をめぐる視覚的効果まで期

待されていると考えられる。

さて、鞠智城の貯水池の取水口からは円面硯（圈足硯の下端部）が出土している（木村二〇一二）。他の九州の古代山城から定型硯なかんずく円面硯の出土は見られない。遺物の出土量が限定される鞠智城跡の中での特殊遺物の出土の意義は大きい。本節で述べたような政治的意義を有し、国府・郡家クラスの官衙遺跡としての性格を示す特殊遺物としての硯がどうして鞠智城跡でのみ出土しているのであろうか。次節で述べることとする。

### 城と官衙

日本古代において、東北の多賀城や秋田城は台地部に置かれて行政上の機能を兼ね備えていたことが知られる（三上一〇〇五）。古代の国家社会にとって、「城」とは何かを検討する時、二つの面を出発点に考える必要がある。第一には、その概念の起源と漢字表記（二訓読）の問題であり、第二に官衙としての性格である。

第一の面から言えば、「城」の漢字表記を「キ」と訓読するのは百濟の漢字訓読の影響がある。六六三年の白村江の戦いで百濟が最終的に滅亡した後、日本列島へ亡命した百濟貴族が天智朝において中央官司の枢要な地位に就き、一方で鞠智城などの北部九州の山城の造営に当たったことは知られるが、それ以前の敏達朝の日羅の来日と奏上、殺害事件の記録（<sup>六</sup>）に「城」の持つ機能について、百濟での行政・軍事経験に基づいた政策論の提言が見られる。

父の欽明天皇から任那復興を遺言された敏達天皇は高句麗、新羅、百濟の三国の使節往来が交錯した状況の中で、倭系百濟官僚で火葦北国造阿利斯登の子で百濟第二位の官位を持つ日羅を招聘す

る。百濟王の反対にあうも、瀬戸内海上交通と対外交通に長じた大伴氏—紀氏—吉備海部氏のラインの尽力で招聘に成功する。

まず軍事力の増強よりは民衆の生活の向上、国力の扶養を先にすることを助言する。百濟が筑紫に進攻する謀略が存在するため、これに対応するには壱岐対馬に密かに兵力を配置し、先兵の女子子供を殺害する。結論としては要害ごとに堅固な城塞を建設して侵略に対応するとの案である。

対馬の金田城、大宰府を守る大野城、基肄城、吉備の鬼ノ城などの朝鮮式山城の整備が「城」の語義として想定される。しかし福岡市の鴻臚館跡や佐賀県の吉野ヶ里遺跡志波屋四の坪地区（佐賀県教育委員会一九九二）から発掘調査により「城」の墨書き土器が出土している点も無視できない。

列島の東北部においても、多賀城に端的に見えるように、城はただの防御拠点ではなく、行政拠点であった。八世紀当初に明らかに国府と通用して用いられていた表現が一次史料に見える。

### 【史料3】威奈大村骨藏器銘

（前略）（大宝）四年正月、進爵從五位上。慶雲二年、命兼太政官左小弁。越後北彊衝接蝦虜。柔懷鎮撫、允屬其人。

同歲十一月十六日、命レ卿除越後城司。（後略）

### 【史料4】『続日本紀』慶雲二年閏正月庚戌条

閏正月庚戌、以從五位上猪名真人、為越後守。

二史料の関係や、越後国府の比定・変遷の問題は措き、現在の新

潟市内の渟足柵・越後城が同時に国司の居所であつたと見るのが定説である。和銅元年（七〇八）の出羽郡設置、和銅五年の出羽国分立以前における律令国家の北方への拠点であつた。

まとめれば、列島の東西を見渡せば少なくとも八世紀初頭までの時期においては、日本の古代国家にとっての「城」とは防衛と行政機能を兼ね備えたもので、海外からの使節の来朝または軍隊の侵攻に備える目的を含んでいた。決して堅固な高地の山城のみに語義が限られるものでなく、渟足柵や多賀城、鞠智城のような平坦な台地上に展開する意義も大きかつたと考えられる。そして渟足柵の出土は鞠智城の官衙の性格を如実に物語ついている。

### 肥前と肥後

古代官道は日本列島における古代律令国家の支配の中で、通常は都と国府の間の速やか且つ確実な陸上交通を担う位置づけであつた。古代律令国家は、地域の集落と交通路から隔絶した直線官道を全国に遍く整備することで、万一の対外戦争に備えた全国的な情報ネットワークと象徴的な支配装置を手にした。

その中で西海道肥前路と北陸道能登路は特異な性格を持つ。能登路は能登国府の先も現在の穴水・輪島を経て珠洲の先端部まで至る。佐渡や越中・越後国への海上連絡も想定されていた。日本海を渡る渤海使の到着に備えていたと考えられている。肥前路は肥前国府の先も続いて彼杵郡高来郡に向かい、島原半島の東で終わり、海上駅路を通じて肥後につながる。その経路は海への眺望を重視した尾根上などが優先して選ばれ、大陸からの船や人の到着に備える目的を持っていて（木本二〇〇〇）。島原半島の対岸の三角半島の駅

路の経路についても同様の特徴が指摘できる。

このような円環状の肥前路を見る上で、鞠智城に対応する機能を持つ地を肥前路沿いの古代山城に見つけることは出来ない。しかし八世紀後半からの兵庫としての性格については、肥前にも少なくとも一つの類例が存する。佐賀市（旧大和町）惣座遺跡（八）から出土した倉庫群である。

惣座遺跡は嘉瀬川の左岸の微高地上にあって、肥前国庁の政庁の北北西二〇〇mに位置し、長崎自動車道の建設に伴つて一九八〇年代前半に発掘調査された。古代のコの字配置の総柱の倉庫群が、弥生中後期の環濠集落の上層に展開する。惣座遺跡の倉庫群は八世紀前半のSB235など七棟の鍵の字配置の建物群に、最も際立った遺構配置を見せつつその機能が始まり、規模を縮小させながら九世紀に続く（田平ほか一九九〇）。国府に付属した倉庫群は全国的にあまり類例がない。建設時期については七三〇年代の官稻混合後に、正倉を管理する財政権限が郡司から国司に移つたが故に、国庁のそばに作られたものではなく、八世紀初頭に遡る。これらの建物群の持つ性格については、鞠智城の総柱倉庫群と同様に、肥前西部の对外防衛に備えた軍事目的の食料備蓄庫としての目的を私案として想定している。律令財政制度的には、『伊豆国正税帳』に見える「兵家稻」に相当するものと考えられる。周知のごとく肥前国を含む西北九州は、对外防衛の拠点として国家的に重視されていた。延暦十一年（七九二）の全国的な軍団兵士制廃止後も、東北と九州の軍団はそのまま置かれ、弘仁四年（八一三）に行われた兵士の定数半減の措置（『類聚三代格』弘仁四年八月九日官符）を経て、肥前国内に三団一五〇〇人の定数は維持される。三つの軍団の内で基肄団・

小城団の他、未詳の団を含め拠点は筑後・佐賀平野に分散して置かれ、緩急あれば官道を介して現地に急行する体制であった。長崎半島の先端部に十世紀には肥最崎警固所が置かれていたことが『本朝世紀』所引「肥前国高来郡警固所解」の吳越船来航記事に知られているが、これら半島部及び島嶼部の防衛体制は白村江の敗戦後の七世紀後半以来の軍事配置を踏襲していたであろうことが推測されている（竹内ほか一九八〇・堀内二〇一六）。つまり、辺要の地に兵士の警備所を設けて、佐賀・筑後平野の後背地に置かれた軍団から交代の兵士が出され、適宜応援する体制を取っていたと想定される。長崎半島や対馬、五島のような地形が険しい地に最初から千人規模の軍団を常駐させることは実務的に不都合であり、非番の時に農耕させる土地もない（堀内二〇一六）。

食料や武器を辺地に平時から大量に備蓄しておくことも想定されていなかったようである。西海道に賊船が攻めてきた時に備えて藤原宇合が天平四年（七三二）に定めた警固式の概要は『続日本紀』に引かれた宝亀十一年勅によつて知られる。そこでは兵士が自宅を出てから五日経てば、公糧を支給できる。相対的に暇な場所の者には生米、要衝に配置された者には糒を支給するとされた（堀内二〇一六）。軍防令6兵士備糧条によれば軍団兵士は糒六斗や塩、装備を自己負担で備え、軍団の所属分隊（十名ごとに「火」）の倉庫（「当色庫」）に合同して保管するものだったが、この場合は五日で公糧を出すことが出来る規定とされていた。農耕に適した土地が少ない辺要では食料の準備が難しく、弓馬に長けた一般農民を臨時に徴発する都合を考慮したことと考へられる。官道などを介して肥前西部全体に有事に往復五日で食料を送り届けるためには、防衛及

び搬出に適切な位置に備蓄が必要であり、肥前国府周辺は最適の地の一つである。西海道肥前路と壱岐連絡路が戦時の食料輸送の大動脈となる。辺地に大量の食料を備蓄しておかなかつたのは、海から来た敵にそれを奪われた場合のリスクが高いなどの状況を考慮したことであろう。地理的に見れば、嘉瀬川の東岸にあつて、川の防衛ラインの手前に食料を貯蔵しておく戦略的な意義があつたものと考へられる。

遺構配置の次の段階で、SB260は近隣では肥前国府正殿に次ぐ規模の二×六間の大型建築である、報告書では八世紀後半から九世紀初めに存続時期が想定され、南に向けたコの字配置の中庭の管理的な施設の所在が推定されている。この変化については、鞠智城と同様に軍事目的で置かれた倉庫が民政目的に転用されたものと想定している。

大村市竹松遺跡の調査で律令地方行政との関わりで最も注目されたものとして「木都」刻書紡錘車の出土がある。九州内出土の類品は佐賀県小城市丁永遺跡（小城町松尾）二区出土の「丁亥年六月十二日 亦□十万呂」と記銘されたもの（古庄・永田・前田・太田二〇一〇）のみであるが、これら二つの遺物が示す歴史事実は大きい。干支については共伴土器の編年から六八七年の年紀を示すものと報告されている。丁永遺跡も竹松遺跡と同じく、遺跡内ないし側を古代官道の西海道肥前路が通過していたことが想定されている。丁永遺跡も竹松遺跡と同じく、遺跡内ないし側を古代官道の西海道肥前路が通過していたことが想定されている。東国からの防人派遣と西海道肥前路の整備が七世紀終盤の段階に確実に遡ることを示唆する。六六三年の白村江の敗戦後の東アジア地域の政治的緊張を受けて、天武・持統期の軍国体制の下で北九州が緊迫した政治社会情勢にあつたことを窺わせる。西海道肥前路の建

設と鞠智城ら古代山城の建設は期を一にして行われたものであった。

なお潮の満引きが大きく遠浅の有明海に唐の大型の軍船が入つてくるとは考えがたく、鞠智城の建設目的として有明海への侵攻への備えを考えるべきでないとの指摘（井上和人二〇一七）も、対唐戦争を想定した戦略を論じる中で言及されたことはある。しかし島原半島と天草に挟まれた口之津瀬戸を通過するには現地の海流と地形に通じた水先案内人が必要であることは、有明海地域の弥生後期歴史的世界を論じる中で宮崎貴夫が指摘しており（宮崎二〇一二）、長島海峡も同様である。葦北国造と百濟との交流も、九世紀の飽田郡への新羅海賊の来寇も在地勢力とは無縁のものではありえない。

国家が北部九州の防衛のために有明海地域を押さえるのに必要なものは、肥後地域の豪族への監視の体制を整備することと、口之津瀬戸に近づく外国船の来航を即座に知るシステムを整備することである。これが長崎半島の先端部の脇岬への警固所（の前身施設）の設置であった（堀内二〇一六）。最初の外国軍船の到着情報を察知し、肥後の在地勢力との提携を国家が掣肘できれば、有明海岸の防衛は易い。鞠智城を行政・軍事の拠点として食糧や武器を保管しておけば、熊本平野へのわずかな外敵の侵入のみならず筑後平野での決戦（井上二〇一七）に備えた後背基地としての機能を發揮する。また、別稿（堀内二〇一六）で触れたように、百濟船の肥後葦北津への推古朝の来航をヤマトへ報せたことが筑紫大宰の初見記事であることは、七世紀初頭のヤマト王権がどう北部九州への支配を展開しようと綿密に構想したかを示している。

#### おわりにかえて

肥後の古代史を考える際、肥前との地理的関係は見過ごせない観点である。鞠智城と肥後地域の古代史に関しては広く律令国家の形成史、東アジア世界史の観点から多くの研究が積み重ねられてきた。しかし従来の研究は多く、福岡平野や大宰府を中心とした古代の西海道の社会像を構築してきた。近年の研究で指摘されるように、那津屯倉＝鴻廬館＝博多を対外交通の窓口に限定する閔市令以来の古代国家の入国・貿易管理システムは十二世紀まで有効性を持つた（渡邊二〇二二）ことは否めないが、古代の外国船の来着地、遣唐使船の帰着地は風向きと海流により多様であり、西九州地域がその寄港地たる事実は揺るがない。肥前・肥後の結びつきは、肥前型器台・台付甕等に見える弥生時代以来の有明海の交通路（宮崎二〇一二）を前提としている。肥前・肥後の地域間関係は『日本書紀』や『肥前国風土記』での景行天皇の巡行伝承にも象徴されている。

古代中世における九州と半島の間の交通路は、福岡平野から沖ノ島を介するルートに加えて、百濟からの日羅の来航ルートや藤原純友の逃走ルートなどに見えるように対馬、松浦半島と五島列島を経て有明海や南九州に入るルートがあつた（新川一九九八）。「日本書紀」における城の起源は肥後経由での百濟からの日羅の來訪説話であり、大宰府の起源の筑紫大宰の初出記事は肥後葦北津への百濟船漂着の報告であつた。鞠智城の位置はこれまで論じられてきたように筑前・肥前・筑後の防衛ラインのバックアップと共に、有明海に在地豪族の導きで外国軍が侵入することを防ぐ意味を兼ね備えていたものと考る。

『本朝世紀』に見える天慶八年の貿易船来航事件からは、長崎半

島先端の脇岬に置かれた警固所と周辺住民と外国貿易船の間で、建前は警固式による海上警備行動と博多湾での貿易一括管理の原則を保つた対応を取りながら、実際には現地での交易が行われた事実を示す。十二世紀前半（大宰府陶磁器編年C期）において朝鮮半島から肥前西部、南九州、南島世界につながる南北交易ルート（堀内二〇一六）が存在したことは、高麗産無釉陶器、滑石産石鍋、徳之島産カムイヤキの分布に示される。九世紀の新羅海賊の肥後への侵入を含め、在地勢力がトランスナショナルに東アジア諸地域の人々と交易を行っていたとの認識は、九州の中世への移行期に関わる研究の道しるべとなるものである。

#### 注

（二）佐藤浩司「一九九三」の概念図（第1図）・中島二〇一五参照。実際の発掘調査による遺物の出土状況が概念図と一致するわけではないが、それは発掘調査範囲や遺物整理などの制約に由来するものと考えられる。

（二）西海道と並んで、末尾では薩奥、出羽の郡司も二日目の筆記試験が免除されることが記されるが、ただ国解を以て都での試験に換えるのか、二国の国府で同等の試験を行ったかは定かでない。須原祥二は式部省での実質的な書類審査として儀式書に書かれる「断入」の意義を認め、少なくとも弘仁式段階では式部省が国擬を受けて厳しい審査を行っていたことを指摘する（須原一九九八）が、その判断の材料となる国擬、西海道と東北の違いについては今なお研究課題に止まる。

（三）早川庄八によれば、郡領試験は淨御原令の「法官」による官人管理の段階に遡る（早川庄八一九八六）。

（四）本儀式では硯ではなく硯笞を用いている点に、平面的な方硯・円形硯などの

使用が一般化した九世紀半ば以降の様相が示されている。硯の形態変化と儀式のあり方との関係については他の儀式の円面硯が用いられたかどうかについては他の儀式の変遷過程の検討を含め、今後の検討課題としたい。

（五）日本古代において多様な型式の陶硯が文字文化と共に中国から（百濟を経て）持ち込まれ（吉田一九八五）、官司・官人制の秩序に応じた使い分けがなされた。もちろん壯麗な大型の蹄脚硯や円面硯の使用の盛期は八世紀前半まであり、九世紀半ば以降は実務的な方硯や円形硯の使用が上級官司でも一般化する点が指摘されている（異二〇〇四・横田一九八三）。弘仁式段階、さらには奈良時代の儀式規定は定かでないが、八世紀後半の儀式構造は貞觀段階にも維持されているものと考えられる。口頭決裁ではなく上級決裁者が筆をとつて公開の場で文書決裁を行う儀礼のために、大時代的な蹄脚硯に対しても八世紀半ばに硯面一体成形技法のB型式（青木敬二〇一四）が付加された可能性を予察している。

（六）本記事は実録性が高く、外交関係記事や大伴氏の葦北国造氏の家記に基づくものと考えられる。

（七）【史料5】慶雲二年（七〇五）十一月の「越後城司」は越後守とほぼ同一と見られるが、【史料6】と任命日に差異がある。先に城柵の管理者となり、追つて越後全体の行政に当たる越後守の職務を帯びることとなつたと見られる。越後国は大宝二年（七〇一）三月に頸城以下四郡を越中中国から移管して間もなく、頸城郡内の国府は未整備であつたと推定される。

（八）惣座遺跡の調査については、当時調査を担当した本田秀樹氏（長崎明誠・高校教諭・前新幹線文化財調査事務所文化財保護主事）から教示を得た。

#### 引用文献

青木 敬 二〇一四 「蹄脚円面硯Bの出現とその特質」『奈良文化財研究所紀

要二〇一四』

石井正敏 二〇一三 「東アジア史からみた鞠智城」『ここまでわかつた鞠智城』

〔鞠智城シンポジウム2012成果報告書〕

井上和人 二〇一七 「古代山城の真実——鞠智城はなんのためにつくられたのか——」『鞠智城の終焉と平安社会』〔鞠智城東京シンポジウム2016成果報告書〕熊本県教育委員会

井上 亘 二〇一六 「国府と郡家——地方官衙の形成」『古代官僚制と遣唐使の時代』同成社（初出二〇〇三）

磐下 徹 二〇一七 「郡司読奏考——郡司と天皇制」『日本古代の郡司と天皇』吉川弘文館（初出二〇〇七）

川口洋平 一九九九 「長崎県における古代遺跡の調査」『古代交通研究』第九号

木本雅康 二〇一一 「肥前国彼杵・高来郡内における古代官道」『古代官道の歴史地理』同成社（初出二〇〇〇）

佐藤浩司 一九九三 「墨書き土器・へら書き土器と硯に関する一考察——律令時代の豊前と大宰府を中心にして」『古文化談叢』第30集（下）九州古文化研究会

堀内和宏 二〇一六 a 「肥前国彼杵郡・高来郡の歴史地理的特質と古代地方社会の労働力動員について」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第6号  
堀内和宏 二〇一六 b 「肥後葦北津に漂着した百濟使節について」『東北亞細亞文化研究』48（韓国釜山）

堀内和宏 二〇一六 c 「中世肥前と南九州及び南島との関係について」『東アジア世界の中の竹松遺跡』長崎県考古学会秋期大会資料集（紙上報告）

堀内和宏 二〇一七 「竹松遺跡と西日本の村落寺院」『民衆史研究』九一号

三上喜孝 二〇一三 「城柵と文書行政」『日本古代の文字と地方社会』吉川弘文館（初出二〇〇五）

宮崎貴夫 二〇一二 「有明海をめぐる弥生文化研究の現状と課題——西北九州地域からの視点——」（『有明海をめぐる弥生時代集落と交流』平成二四年度長崎県考古学会・肥後考古学会合同大会資料集）

佐藤全敏 二〇〇八 「日本古代の四等官制」『平安時代の天皇と官僚制』東京大学出版会（初出二〇〇七）

新川登亀男 一九九八 「東アジアのなかの古代統一国家」『長崎県の歴史』山川出版社

新川登亀男 一九九九 「日本古代の儀礼と表現」吉川弘文館

須原祥二 二〇一一 「式部試練と郡司読奏」『古代地方制度形成過程の研究』吉川弘文館（初出一九九八）

竹内理三・瀬野精一郎・田中健夫 一九八〇 『長崎県史 古代中世編』長崎県

巽淳一郎 二〇〇四 「紙・筆・墨・硯」『古代の官衙遺跡II 遺物・遺跡編』奈良文化財研究所

寺崎保広 二〇〇六 「式部曹司庁の成立」『古代日本の都城と木簡』吉川弘文館（初出二〇〇〇）

中島恒次郎 二〇一五 「土器から考える遺跡の性格——大宰府・国府・郡家・集落——」『官衙・集落と土器I』〔第18回古代官衙・集落研究会報告書〕早川庄八 一九八六 「選任令・選敘令と郡領の「試練」」『日本古代官僚制の研究』岩波書店（初出一九八四）

早川庄八 一九八六 a 「肥前国彼杵郡・高来郡の歴史地理的特質と古代地方社会の労働力動員について」『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第6号

堀内和宏 二〇一六 b 「肥後葦北津に漂着した百濟使節について」『東北亞細亞文化研究』48（韓国釜山）

森 公章 二〇〇〇 『古代郡司制度の研究』吉川弘文館

山口英男 一九九三 「郡領の誼擬とその変遷」（笛山晴生先生還暦記念会編 一九九三『日本律令制論集』下巻・吉川弘文館）

横田賢次郎 一九八三 「福岡県内出土の硯について——分類と編年に関する一試案」『九州歴史資料館研究論集』9

吉川真司 一九九八 『律令官僚制の研究』 塙書房

吉田恵一 一九八五 「日本古代の陶硯の特質と系譜」 『國學院大學考古資料館

『紀要』 第1輯

渡邊 誠 二〇一二 『平安時代貿易管理制度史の研究』

虎尾俊哉編 二〇〇〇~二〇一七 『訳註日本史料 延喜式』 〔全三巻〕 集英社

断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書11』

寺崎保広 一九九一 「4 式部省の調査 第220次」 『1990年度平城宮

跡発掘調査部発掘調査概報』 奈良国立文化財研究所

古庄・永田・前田・太田正和 二〇一〇 『北小路遺跡1・2区丁永遺跡1・2・4・

5区』 小城市文化財調査報告書第9集

#### 〔発掘調査報告書〕

浦田和彦・堀内和宏・東郷一子 二〇一七 『平野遺跡』 新幹線文化財調査事務

所調査報告書第2集・長崎県教委

浦田・堀内・東郷ほか 二〇一七 『竹松遺跡I』 新幹線文化財調査事務所調査

報告書第3集・長崎県教委

小澤毅 一九九三 「1 式部省の調査 第229・235次」 『1992年度平

城宮跡発掘調査部発掘調査概報』 奈良国立文化財研究所

川畑敏則・中尾篤志・中川潤次ほか 二〇一七 『竹松遺跡II』 新幹線文化財調

査事務所調査報告書第4集・長崎県教委

川畑・中尾・中川・堀内 二〇一八 『竹松遺跡III』 新幹線文化財調査事務所調

査報告書第5集・長崎県教委(近刊)

木崎康弘 一九九七 「堂園遺跡の調査とその成果」 『堂園遺跡・中尾遺跡・別

府遺跡』 熊本県文化財調査報告第一五九集

木村龍生 二〇一二 『貯水池の調査』 『鞠智城跡II』 熊本県文化財調査報告第

二七六集

小池伸彦 一九九二 「2 式部省・式部省東役所の調査 第222次」

『1991年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』 奈良国立文化財研究所

佐賀県教育委員会一九九二『吉野ヶ里』 佐賀県文化財調査報告書第一一三集

田平徳栄ほか 一九九〇 『惣座遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第98集 〔九州横

表 九州内特殊遺物出土遺跡一覧

・大宰府条坊と辺りは事例修正の範囲から除外。

・文部省事務取扱いに付山梨品主住文化財保護主事(美術品埋蔵文化財センター)の協力を得た。

遺跡名	所在地	調査原因	類型	陶器	石器	縄抽繩	出典	シリーズ名	号数	報告者	発行年	調査年	備考		
													標	圓足	
1 伊祖神社墓域	福岡県北九州市小倉南区竹崎	不明	オ	圓足	なし		天鏡山黒跡群	北九州埋蔵文化財調査会	—	小田富士雄	1977	—	小田富士雄・加藤和也・山口義治・鈴木富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	田中富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	
2 桂原遺跡	福岡県北九州市小倉南区竹崎	桂原遺跡	ウ	圓足	なし		北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	太田久守	2005	2000	2005	田中富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	田中富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	
3 愛宕遺跡	福岡県北九州市小倉南区竹崎	愛宕遺跡	ウ	圓足	なし		北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	鈴木富士雄	1986	1986	2005	田中富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	田中富士雄・1972福岡市埋蔵文化財調査報告書第42集	
4 加治屋敷遺跡	北九州市小倉南区竹崎	加治屋敷遺跡	ウ	圓足	なし		北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	木太久守	2005	2001	2005	西海東京大橋が開通	西海東京大橋が開通	
5 潤崎遺跡	北九州市小倉南区東垂2丁目	公營潤崎団地で替え	イ?	圓足	丸瓶1・巡方	○	潤崎遺跡第8地点	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	木太久守	1998	1994~95	1994~95	杯・鉢底部外腹に用ひた墨入点。	杯・鉢底部外腹に用ひた墨入点。	
6 萬野遺跡	北九州市小倉南区萬野2丁目	萬野遺跡	ウ	圓足	巡方	○	萬野遺跡	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	梅崎恵司	1997	1991~92	1991~92	銅鏡も出土。	銅鏡も出土。	
7 貴川遺跡	北九州市小倉南区貴川2丁目	河川改修	ウ	圓足	巡方	○	貴川遺跡3	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	前田義人	1990	1987~88	1987~88	貴川遺跡	貴川遺跡	
8 下眞跡	北九州市小倉南区眞跡3丁目	土取事	ウ	圓足	なし	○	下眞跡	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	栗山伸司	1995	1993	1995	栗山伸司	栗山伸司	
9 山田遺跡2・3区	北九州市小倉南区山田2・3番	市道改築	ウ	圓足	なし	○	山田遺跡2	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	中村利久	2011	2001	2011	西海東京大橋が開通	西海東京大橋が開通	
10 朝倉遺跡	北九州市小倉南区朝倉2丁目	市道改築	ウ	圓足	なし	○	朝倉遺跡第16地点	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	宇野慎哉	2000	2000	2000	圓場整備後後に回建で替えを受ける。須恵器差や	圓場整備後後に回建で替えを受ける。須恵器差や	
11 長野・早田遺跡	北九州市小倉南区長野1丁目	河川改修・渠溝建設	ウ	圓足	なし	○	長野・早田遺跡	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	山口信義・佐藤浩司	1987	1987~88	1987~88	銅鏡も出土。	銅鏡も出土。	
12 石田・國領遺跡	北九州市小倉南区石田2丁目	市道改築	ウ	圓足	なし	○	石田・國領遺跡	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	佐藤浩司	1996	1990	1996	田代地方古墳群	田代地方古墳群	
13 藤原町遺跡	北九州市小倉南区藤原町	市道改築	ウ	圓足	なし	○	新園町遺跡3地2・3	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	栗山伸司	2002	2004	2002	第192集でも縄文陶器報告あり。	第192集でも縄文陶器報告あり。	
14 洪生寺遺跡	北九州市小倉南区洪生寺2丁目	市道改築	ウ	圓足	なし	○	洪生寺遺跡2	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	木太久守・栗山伸司	2004	1998~99	1998~99	鈴丸新潟も出土。	鈴丸新潟も出土。	
15 金山遺跡	北九州市小倉南区金山2丁目	都市計画道路建設	イ	鳳字鏡	○	○	金山遺跡IV	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	山口信義・佐藤浩司	1987	1988	1988	第22・24集でも縄文陶器報告。	第22・24集でも縄文陶器報告。	
16 長山・外道跡	北九州市小倉南区長山1丁目	民間宅地造成	ウ	圓足	なし	○	長山・外道跡	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	木太久守	1996	1993	1996	周辺の上戸水田跡(北九州田90集)から朝丸新潟出土。	周辺の上戸水田跡(北九州田90集)から朝丸新潟出土。	
17 牛丸遺跡	北九州市小倉南区牛丸1・2	市民道社センター建設	ウ	圓足	なし	○	牛丸遺跡II	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	栗山伸司	2002	1999	2002	第192集でも縄文陶器報告あり。	第192集でも縄文陶器報告あり。	
18 牛丸遺跡	北九州市小倉南区牛丸2丁目	市道改築	ウ	圓足	なし	○	牛丸遺跡II	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	木太久守・栗山伸司	1990	1979	1990	田代地方古墳群	田代地方古墳群	
19 多々良込田遺跡	北九州市小倉南区多々良込田2丁目	流通施設拡充	エ	圓足2・面	丸瓶4・巡方	○	多々良込田遺跡II	北九州埋蔵文化財調査報告書第42集	山崎裕司	1985	1983~84	SD4は第3次調査から連続、那津の運河との接場か	SD4は第3次調査から連続、那津の運河との接場か		
20 海の中道遺跡	福岡県福岡市東区	学術調査	工	圓足	なし	—	丸瓶	海の中道跡II	朝日新聞・海の中道跡発掘調査	村上恭通	1993	1993	1993	1993	1993
21 南人塙遺跡第8次	福岡県福岡市博多区元町1丁目3-14	自宅兼共用住居建設	ウ	圓足	なし		南人塙遺跡群	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	力武桂治	1999	1997	1997	隣接する古跡調査遺跡に宮街的遺構2つ。	隣接する古跡調査遺跡に宮街的遺構2つ。	
22 稲崎遺跡第20次	福岡県福岡市博多区元町1丁目3-14	土地区画整理事業	イ	圓足	なし		稻崎遺跡20次報告書(2)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	佐藤一郎	2005	2001~03	2005	1世紀前半から中葉の井戸や工事多し。北宋前期の鐵器・金銀・銅鏡等が出土。	1世紀前半から中葉の井戸や工事多し。北宋前初期の鐵器・金銀・銅鏡等が出土。	
23 稲崎遺跡第64次	福岡県福岡市博多区元町1丁目3-14	共同住宅建設	イ	圓足	なし		稻崎遺跡43	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	松村道博	1989	1984~86	1984	1世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	1世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
24 博多・道跡群第2次	福岡県福岡市博多区元町1丁目3-14	都市計画道路拡幅(大博)	工	圓足	なし	—	山形1・巡方	博多・大博(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	力武桂治・大庭廉	1998	1984	1984	1世紀前半から成立の市街地区画溝・大量の土器皿、貿易関連品出。	1世紀前半から成立の市街地区画溝・大量の土器皿、貿易関連品出。
25 博多・道跡群第4次	福岡県福岡市博多区元町1丁目3-14	地下鉄建設	工	圓足	なし		博多・高速鉄道開通調査(1)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2011	2009~10	2011	前半遺跡の2号窯・溝に切られる。重上に火葬頭骨集石遺構。	前半遺跡の2号窯・溝に切られる。重上に火葬頭骨集石遺構。	
26 博多・道跡群第22次	福岡県福岡市博多区牛込189地	ビル建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
27 博多・道跡群第2次	福岡県福岡市博多区牛込189地	ビル建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
28 博多・道跡群第1次	福岡県福岡市博多区牛込189地	社屋ビル増築	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
29 博多・道跡群第17次	福岡県福岡市博多区牛込189地	博多・大通(福岡港線)	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
30 博多・道跡群第80次	福岡県福岡市博多区牛込189地	博多・大通(福岡港線)	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
31 博多・道跡群第45次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
32 博多・道跡群第85次	福岡県福岡市博多区牛込189地	建物剥離跡地道路建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
33 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
34 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
35 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
36 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
37 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
38 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
39 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
40 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
41 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
42 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
43 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
44 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
45 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
46 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一・同上	2012	2004~05	2012	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	奈良時代別れの2号窯・溝を12世紀の土坑が埋り込む。14世紀前半から中葉の井戸や工事多し。	
47 博多・道跡群第12次	福岡県福岡市博多区牛込189地	共同住宅建設	工	圓足	なし		博多・大通(福岡港線)	福岡市埋蔵文化財調査報告書第502集	高橋義一						



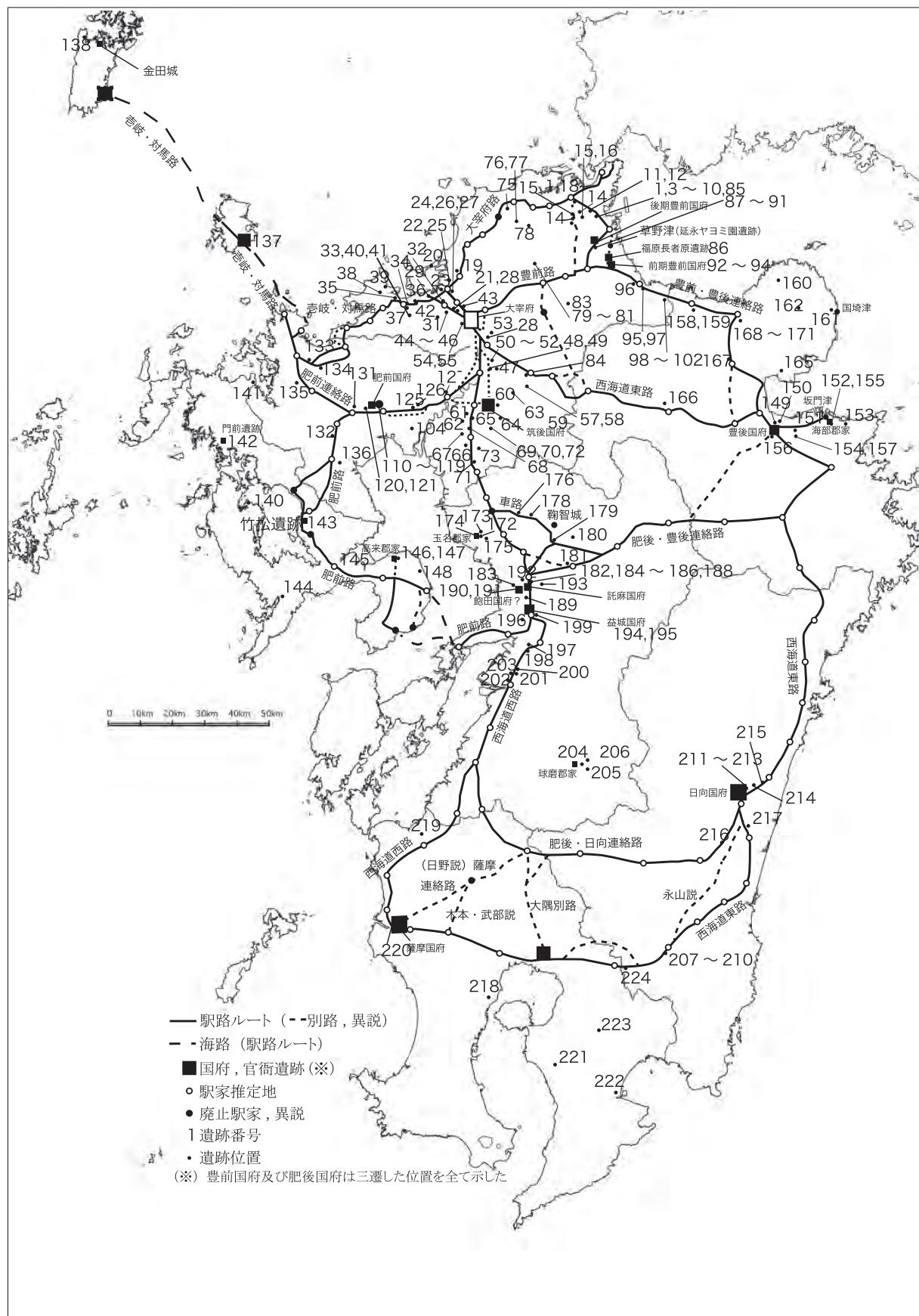
73	御二田遺跡	福岡県みやま市上須磨高町山門郷二田	県道工事日記録	ウ	圓足鏡	○	御二田遺跡Ⅱ	みやま市文化財調査報告書	第12集	田中重信	2016	未見	西海道西脇沿い、	
74	山下遺跡	福岡県福岡市西区山田山田	宅地造成	ウ	二面鏡	○	山の上遺跡	福岡市文化財調査報告書	第16集	小田和利	2001	未見	第六文化圏 西浦道西脇沿い、	
75	山下遺跡	福岡県福岡市西区山田山田	宅地造成	ウ	○	○	墓ノ尾遺跡2地点	山下遺跡	下川航也(編著)・中川潤	2000	1996	町内の片山地区の墓ノ尾、室屋、室屋、室屋から調査		
76	電線道跡?	福岡県宗祇市(日新手割宮田町)原田	表保	?	丸瓶	○	宮町遺跡	宮町文化財調査報告書	第19集	大曲秀吉	1978	—	丸橋の出土、調査第19集	
77	西屋敷遺跡・古墳群	福岡県宗祇市(日新手割宮田町)原田	農業基礎整備	?	○	○	原田遺跡群	若宮町文化財調査報告書	第14集	舌間悟	1998	1995	「全国出土銅帶集成」より	
78	中間中学校裏・六塚	福岡県中間市原田町高柳490	—	ウ	三脚円形	なし	小田富士遺跡(福岡市内面塗)	考古学雑誌	48-1	小田富士雄	1982	—	別称・横六古墳	
79	鳥居遺跡	福岡県飯塚市膳毛黒	農業基礎整備	ウ	○	○	小田富士遺跡(福岡市内面塗)	飯塚市文化財調査報告書	第32集	須原義人・井上義弘	2007	1996	西海道後路、広瀬川推定地に近接、構断道開墾で、朝	
80	井房遺跡	飯塚市(旧膳毛町田町)佐字寺ノ原	農業基礎整備	ウ	○	○	井房遺跡	小久保・動植物	柳山範一・大木健一郎	2004	2002	井房遺跡、内野地区遺跡群1		
81	土取遺跡	飯塚市(旧膳毛町田町)内野字土取	農業基礎整備	ウ	○	○	内野地区遺跡群1	第8集	柳山範一・杉内郷	2004	2001~02	井房遺跡、内野地区遺跡群1		
82	觀音寺	福岡県田川郡添田町中元寺字觀音寺	農業基礎整備	ウ	丸瓶	○	中元寺遺跡群1	添田町文化財調査報告書	第7集	岩本義人	2009	2004~05	西海道後路、広瀬川推定地に近接、構断道開墾で、朝	
83	才田遺跡	福岡県朝倉市朝倉才田大字才田	九州横断自動車道建設	イ	巡方	○	才田遺跡	九州横断自動車道開拓整理歴史	第46集	宮田浩之	1998	1985	鳥居遺跡から副葬品の鶴塚方、長島遺跡から鶴丸塚出土	
84	雨落遺跡群	福岡県糸島郡糸島町大字雨田	東九州自動車道建設	イ	○	○	○	福岡県京都市丸山町雨田遺跡群	東九州自動車道開拓整理歴史	第1集	飛野・坂元・杉原・酒井・坂本	2004	2000~01	福岡県京都市丸山町雨田遺跡群
85	福原長者原遺跡	福岡県糸島市大字計2丁目	東九州自動車道建設	ア	圓足鏡	○	○	福原長者原遺跡2・3次調査	東九州自動車道開拓整理歴史	第13集	岡田鈴	2014	2010~03	福原長者原遺跡2・3次調査
86	高井正丸遺跡	福岡県行橋市大字高井正丸45	県営圃場整備	イ	丸瓶	○	高井正丸遺跡	高井正丸遺跡	第38集	中原博	2011	1997~98	最低限の遺構・遺物実測図を提示し、本文に摘要報告の	
87	野野原遺跡	行橋市大字高井正丸45丁目1番	宅地開発	ウ	○	○	○	行橋市文化財調査報告書	第20集	小川秀樹	2001	1990	高井正丸遺跡	
88	福永法師ヶ原跡	行橋市大字高井正丸45丁目3地	県営圃場整備	ウ	○	○	○	福永法師ヶ原跡	行橋市文化財調査報告書	第30集	中原博	2002	2001~02	福永法師ヶ原跡
89	福富小畠遺跡	福岡県糸島市大字計2・3次調査	県営圃場整備	ウ	○	○	○	福富小畠遺跡	福岡県埋蔵文化財調査報告書	第19集	泰山・森井裕次	2004	2001~02	福富小畠遺跡
90	計量下出口遺跡	福岡県糸島市大字計2・3次調査	東九州自動車道建設	ア	圓足鏡	○	○	○	東九州自動車道開拓整理歴史	第13集	岡田鈴	2014	2010~03	計量下出口遺跡
91	豊前国所跡	福岡県行橋市大字高井正丸45	県営圃場整備	イ	丸瓶	○	豊前国所	平成13年度発掘調査	第38集	中原博	2011	1997~98	最高限の遺構・遺物実測図を提示し、本文に摘要報告の	
92	幸木遺跡	福岡県糸島市中矣丁目1番	宅地開発	ウ	○	○	幸木遺跡	幸木遺跡出土品	第2集	幸木義人	1976	—	幸木遺跡出土品	
93	木山庵寺	京都府みやこ町(旧鹿川町)木山	○	○	○	○	木山庵寺	鹿川町文化財調査報告書	—	—	1975	—	木山庵寺	
94	越路骨船遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	県道建設	イ	丸瓶	○	○	越路骨船遺跡	福岡県埋蔵文化財調査報告書	第161集	小池史哲・飛野博文	2001	1998	石帶は未開拓、越路六郎遺跡、越路長持遺跡からも線
95	赤瀬森・坪塚跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	国道ハイウェイ建設	イ	丸瓶	○	○	赤瀬森・坪塚跡	椎田ハイウェイ建設報告書	第1集中	小田和利	1992	1989	福岡県教育委員会企画監修 方に500mに跨る
96	ウツクシ遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	国道ハイウェイ建設	イ	丸瓶	○	○	ウツクシ遺跡	ウツクシ遺跡調査報告書	第6集上	森謙二	1997	1994	福岡県教育委員会企画監修 方に500mに跨る
97	道ノ木遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	国道ハイウェイ建設	ウ	○	○	○	平成13年度	福岡県埋蔵文化財調査報告書	—	—	未報告?	国指定史跡大・浦官衙遺跡、概要報告書であり、未復元	
98	永久遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	園路整備	ア	圓足鏡	○	○	大ノゾ下大坪遺跡	新吉富町文化財調査報告書	第11集	矢野和昭	1998	1996~97	国指定史跡大・浦官衙遺跡、概要報告書であり、未復元
99	久尺土體築田遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	県道建設	イ	○	○	○	大ノゾ下大坪遺跡	新吉富町文化財調査報告書	第25集	森謙二・川井史哲	2016	1999~2000	国指定史跡大・浦官衙遺跡、概要報告書であり、未復元
100	前前遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	道の駅建設	イ	○	○	○	平成11年度	福岡県文化財調査報告書	平成11年	矢野和昭	2001	1999	未報告? 20坪以上の掘立柱建物があり、大・浦官衙遺跡
101	荒大和遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	園路整備	ア	圓足鏡	○	○	青畠向原遺跡・永久遺跡	青畠向原遺跡調査報告書	第27集	栗焼恵見・柳井昭仁・永井利祐	1999	1994	未報告? 20坪以上の掘立柱建物があり、大・浦官衙遺跡
102	粟寺原遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	県営圃場整備	ウ	○	○	○	粟寺原遺跡	粟寺原遺跡調査報告書	第12集	栗焼恵見・柳井昭仁・永井利祐	2010	1998	市内大村石細通跡から銅鏡見出
103	塙田南遺跡	福岡県糸島市大字高井正丸45丁目	集合住宅地	イ	円面鏡	—	—	福岡県埋蔵文化財調査年報	平成8年度	村上敦	1999	1996~98	旧二丈町、瀬江町家か? 未報告?	
104	蓮池上天神遺跡	佐賀県佐賀市蓮池町大字小松	河川整備	ウ	○	○	蓮池上天神遺跡	佐賀県埋蔵文化財特別緊急調査報告書	—	福田義彦	1994	1983~84	11世紀の遺構、滑石製品や羅漢像等が出土。神廟	
105	龜木三本杉遺跡	佐賀県佐賀市呂田町大字龜木	区画整理	イ	丸瓶	○	○	龜木三本杉遺跡1	佐賀県埋蔵文化財調査報告書	第3集	中野洋一郎	2006	2003	龜木三本杉遺跡、類・東羅系須惠器など伴存
106	「一屋敷遺跡」	佐賀県佐賀市大字木賀子	宅地開発・店舗建設	ウ	○	○	○	「一屋敷遺跡」	佐賀県埋蔵文化財調査報告書	第10集	中野洋一郎	1999	1994~96	近傍のコマリ遺跡、下村遺跡からも須惠器出土
107	藤原日通跡	佐賀県佐賀市大字木賀子	九州横断自動車道建設	ウ	圓足鏡	○	○	久路六丁遺跡・粟寺原遺跡	久路六丁遺跡・粟寺原遺跡調査報告書	第24集	福田義彦	1980	1977~78	山王古墳・近傍、遺構に伴わなし。
108	牛島遺跡	佐賀市(旧佐賀郡)大和町大久保池井	河川整備	ウ	○	○	○	西子布遺跡2~7号	佐賀市文化財調査報告書	第60集	中野充	1997	1995	遺構は中世、近世の溝や土坑墓の外、龍泉窯系青磁碗
109	西千布遺跡	佐賀市金立町大字千布字千布	九州横断自動車道建設	ウ	○	○	○	西千布遺跡	佐賀市文化財調査報告書	第28集	洪谷裕一・森田豊・天本・副	1996	1985~86	11世紀の遺構としての性格が報告される。佐賀市文化財委員会
110	本村籠遺跡	佐賀市五郎原町大字木賀子	土地改良事業	イ	丸瓶	○	○	本村籠遺跡	大和町文化財調査報告書	第10集	中野洋一郎	1990	1993~94	龍泉窯青磁碗、類・東羅系須惠器など伴存
111	肥前国府跡	佐賀県佐賀市大和町久池	史跡整備	ア	圓足鏡	なし	○	肥前国府跡II	佐賀県文化財調査報告書	第58集	田平徳・松井昌三・栗原義典	1981	1978~79	肥前国府跡II
112	肥前国分寺跡	佐賀市(旧佐賀郡)大和町宇佐真島	史跡確認調査	イ	長方鏡	○	○	肥前国分寺跡	大和町文化財調査報告書	第1集	高瀬哲郎	1976	1974~75	肥前国分寺跡、白磁1類なども出土

113	久池井B遺跡	佐賀県佐賀郡(現佐賀市)大和町大字 久池井	九州機動自動車道佐賀C 建設	ア	丸柄	惣座遺跡	佐賀県文化財調査報告書(九州横 断道1)	第95集	田平徳栄	1990	1982	II区南側の、宇配川の盲筋の掘立建物(国司館?)に北 側の東西列小倉庫群に対する低湿地を東西にこな れた堤防遺跡に面積が想定される。	
114	惣座遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字 久池井字四本杉(大和町大字久池井 本杉字四本杉)	範囲説明調査 範囲説明調査報告書	イ	○	平成10年度 大和町内遺跡調査 未報告?	大和町文化財調査報告書	第56集	松本隆昌	2000	1998	肥前国府周辺集落、官人居住域	
115	東古賀遺跡	佐賀県佐賀市大和町大字久池井字四 本杉	道路改良事業	イ	○	東古賀遺跡1	大和町文化財調査報告書	第71集	松本隆昌	2004	2001-02	第76集中にも線油抽水機器遺存	
116	小川遺跡	大和町大字久池井	イ	○	巡方	綾尼遺跡	大和町文化財調査報告書	第30集	松本隆昌	1995	1993-94	「全国出土銅器集成」より 肥前國府から青銅器300m、管湯跡検出。撫琴工類の某 形彫器も出土。近隣の館跡から銀油器出土。	
117	綾尼遺跡	同上	区画整理	イ	丸柄	綾尼遺跡	大和町文化財調査報告書	第30集	松本隆昌	1995	1993-94	肥前國府から青銅器300m、管湯跡検出。撫琴工類の某 形彫器も出土。近隣の館跡から銀油器出土。	
118	一本木遺跡	佐賀市(旧佐賀郡)大和町大字尼寺 1287-1288字一本木	個人住宅建設	イ	○	下村遺跡	佐賀市文化財調査報告書	第2集	山口亨	2006	2004	「全国出土銅器集成」より 肥前國府から青銅器300m、管湯跡検出。撫琴工類の某 形彫器も出土。近隣の館跡から銀油器出土。	
119	下村遺跡	佐賀市大和町大字尼寺字義山	区画整理	イ	○	久留間力ミ原遺跡	佐賀県史跡名勝天然記念物調査 久留間遺跡調査報告書	第4集	木島憲治	1996	1993-94	九州総合文化研究空所調査、1980年調査では古墳時代の 遺構、墓葬と共に平安前年の土石器類がSOD1から出土 し。古代西海岸開拓時代に近接。	
120	久留間力ミ原遺跡	大和町大字尼寺上久留間	土取りの跡に緊急発掘	ウ	丸柄	久留間力ミ原遺跡	佐賀県文化財調査報告書	第10集	松尾製作	七田忠志	1951	1950	古墳時代の西田和記
121	西山田三木松B遺跡	佐賀県佐賀郡(現佐賀市)大和町大字 川上	九州横断自動車道建設	ア	一本杉遺 田面根	西山田2	西山田二木松遺跡	佐賀県文化財調査報告書	第65集	西田和記	1982	1975-86	田平徳栄(報告書)、天本洋一、 船底板、一本杉根、船口秀信、小松謙一 報告文では、調査當日内に「大和」(國府津?)の説を推 定
122	畑田遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字 大野	農業基礎整備事業	工	一本杉遺 田面根	西足見2	丸柄1・蛇尾 1	佐賀県文化財調査報告書	第90集	種浦彦	1988	1985	報告文では、調査當日内に「大和」(國府津?)の説を推 定
123	友良遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字金立	工業団地建設	ウ	○	西足見2	丸柄2-78	佐賀県農業整備基盤事業に係る 文化財調査報告書	第80集	木島憲治(報告書)	1997	1994	田平徳栄(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
124	徳永遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字 久保	久保工業団地建設	ウ	○	西足見2-78	友良遺跡	佐賀市文化財調査報告書	第125集	木島憲治(報告書)	2001	1995	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
125	吉野ヶ里遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字 吉野ヶ里	工業団地建設	ア	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第125集	木島憲治(報告書)	1998	1995	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
126	熊谷遺跡	佐賀県佐賀市(現佐賀市)大和町大字金立	工業団地建設	ウ?	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第113集	七田忠昭	1992	1986-88	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
127	中津隅千歲遺跡	佐賀県佐賀市久保町大字上久保	中津隅千歲	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第125集	七田忠昭	1980	1977-78	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
128	下中村遺跡	佐賀県神埼市田川町(現田川町) 大字中村	県営団地建設	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第113集	七田忠昭	1980	1977-78	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
129	抱美遺跡	佐賀県鳥栖市立町字抱美	県営団地建設	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第51集	久石高史	1997	1985-96	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
130	社遺跡	佐賀県神埼市(現佐賀市)大字社	浄水場建設	エ?	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第11集	鶴見良紀	1999	1979	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
131	千葉城遺跡	佐賀県小城市(現佐賀市)三日町	重要道路確認調査	イ?	○	西足見2-78	西足見2	千葉城跡・妙見山遺跡調査報告書	第3集	天本洋一	1988	1984	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
132	みやこ尾遺跡	佐賀県武雄市田川町(現田川町) 大字みやこ尾	県営団地建設	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第15集	七田忠昭	1980	1977-78	西田和記(報告書)、古賀章彦 (報告書)、西田和記(報告書)
133	中原遺跡	佐賀県唐津市大字中原	県営基盤整備事業	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第168集	小松謙一、美浦雄二	2007	1989-91	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
134	鶴ノ尾遺跡	佐賀県唐津市大字鶴ノ尾	県営基盤整備事業	ウ	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第109集	森田孝志	1981	1979	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
135	座主遺跡	佐賀県唐津市大字座主	農業基盤整備事業	ア	○	西足見2-78	西足見2	佐賀市文化財調査報告書	第60集	森田孝志	1981	1979	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
136	大黒町遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)大字 大黒町	農業基盤整備事業	ア	○	西足見2-78	西足見2	佐賀県文化財調査報告書	第71集	立石泰久	1986	1982	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
137	原の辻遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)大字 原の辻	圃場整備工事	ア	○	西足見2-78	西足見2	原の辻遺跡・安原の辻遺跡 原の辻遺跡調査報告書	第1集	川口洋平	1997	1992	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
138	大宝遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)大字 大宝	圃場整備事業	ア	○	西足見2-78	西足見2	大宝遺跡調査報告書	第11集	川口洋平	1999	1998	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
139	水崎・饭宿遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)大字 水崎・饭宿	緊急雇用対策事業	?	○	西足見2-78	西足見2	水崎・饭宿遺跡調査報告書	第1集	川口洋平	2001	2000	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
140	藤原神貝塚	佐賀県西彼杵郡(現西唐津市)西彼杵 大字神貝塚	住宅建設(未成)	工	○	西足見2-78	西足見2	藤原神貝塚調査事業 藤原神貝塚調査報告書	第1集	福田一志	1998	1997	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
141	今福遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)今福	圃場整備事業	イ?	○	西足見2-78	西足見2	今福遺跡調査報告書	第11集	高橋義明	1998	1996-97	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
142	門前遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)門前	九州新幹線長崎ルート建 設	イ?	○	西足見2-78	西足見2	門前遺跡調査報告書	第109集	高橋義明	2006	2002-04	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
143	竹松遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)竹松	県道建設	イ?	○	西足見2-78	西足見2	竹松遺跡調査報告書	第4集	川畠敏則、中尾義弘、中川潤	2017	2012	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
144	桜町遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)桜町	高松校校舎	?	○	西足見2-78	西足見2	桜町遺跡調査報告書	第162集	川口洋平	2001	2000	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
145	小野堀口遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)小野堀口	県営灌漑排水事業	ウ	○	西足見2-78	西足見2	小野堀口遺跡調査報告書	第17集	園村敏哉	2005	2004	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
146	十園遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)十園	圃場整備事業	ア	○	西足見2-78	西足見2	十園遺跡調査報告書	第4集	竹中野瀬哲朗	2004	2000-03	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
147	專正寺遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)專正寺	圃場整備事業	イ?	○	西足見2-78	西足見2	專正寺遺跡調査報告書	第5号	竹中野瀬哲朗	2003	2002	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明
148	大野原七反畠遺跡	佐賀県唐津市(現唐津市)大野原	町営ブルーム建設	イ	○	西足見2-78	西足見2	大野原七反畠遺跡調査報告書	第10集	諫見富士郎	1993	1991	西田和記(報告書)のSOGの実測図あるも、年代不明





宮地銀行寺遺跡	熊本県八代市宮地町小畑	九州新幹線建設	イ	提供型現 面と報 告	八代平野干拓遺跡群・宮地小畑 遺跡・宮地銀行寺遺跡群	熊本県文化財調査報告	第254集	宇田貢特・長谷部善一・高田 2010	2003	西南海路沿いに位置し、隣接する小畑遺跡を含めて官 省的な大規模な穴を発見
203 西片町遺跡周辺	熊本県八代市西片町沖	表面採取	?	圓足硯	西片百田遺跡	熊本県文化財調査報告	第242集	上高原院・長谷部善一 須恵村註	2007	1950年代? 江上利勝撰集、八代市立博物館蔵、三島格(96)に紹 介。相應された裏面刻印は大型十字透かしは認えない
204 西小原遺跡	球磨郡上村(現あさぎり町)西小原	?	イ?	○	須恵村註	須恵村註	—	—	1995	1950年代? 江上利勝撰集、八代市立博物館蔵、三島格(96)に紹 介。相應された裏面刻印は大型十字透かしは認えない
205 下り山墓跡	熊本県球磨郡船町大字一武字下り山	学术調査	工	圓足硯	生産遺跡基本調査報告書Ⅰ	熊本県文化財調査報告	第46集	松本健郎(調査隊長・坂本経 教委)	1980	1966(昭51) 津谷敦・福坂公康・前田一洋他(67)下り山須恵窯跡発 見。窯業工場(窯工業高校窯工科)研究部昭和14年
206 堂園遺跡	熊本県球磨郡大字さとり町(須恵村)須 恵堂園	烟地帶総合工地改良事業	ア	○	堂園遺跡・中尾遺跡・別府遺跡	熊本県文化財調査報告	第150集	木崎康弘	1997	1990~1991 運転の須恵窯・土師窯等の器形品が出土。現地調査時に開かれる 運転の須恵窯・土師窯等の器形品が出土。現地調査時に開かれる 人物が里屋で作業などと推定され、須恵窯の可能性が高い
207 並木添遺跡	宮崎県都城市志比田町3441他	工業用地建設	ウ	丸瓶	二タ元遺跡	都城市文化財調査報告書	第24集	重永幸爾・下田代清海	1994	1993 量面にヶ所の溝跡があり、間にハリ金が付着。残存 量178g
208 二タ元遺跡	宮崎県都城市義原町字馬鹿	大規模店舗建設	イ	丸瓶	馬鹿遺跡	都城市文化財調査報告書	第29集	美田昭光導	2004	1999~2000 亀田勝少作須恵窯、近(=四面庇建物882、二面庇建物830 あり)西海岸大崎沿いで
209 馬鹿遺跡	宮崎県都城市義原町字馬鹿	農業基盤整備事業	ア?	巡方	加治屋日遺跡(平安時代~近世)	都城市文化財調査報告書	第86集	下田代清海	2008	2001~2003
210 加治屋日遺跡	宮崎県都城市南横町	農業基盤整備事業	ア?	巡方	国衙・郡衙・古寺跡等範囲調査	宮崎県教育委員会	II 平成4 1年版	長津宗重	1983	1992~1993 国府推定地東端丘地原
211 上美地区遺跡	宮崎県西都市大字美上妻	確認調査	ア	巡方	西谷正・九郎の出土の鉢・石帶地	人類史研究 9号	9号	1997	—	
212 覆瓦遺跡	宮崎県西都市轟2番地	西都町大字三宅字里沙門	?	巡方	轟北遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書	第62集	馬場良博	2004	1999~2000 亀田勝少作須恵窯、近(=四面庇建物882、二面庇建物830 あり)西海岸大崎沿いで
213 宮の東遺跡	宮崎県西都市大字岡富字宮	東九州自動車道建設	イ?	円面硯・ 丸瓶	宮ノ東遺跡	都城市文化財調査報告書	第83集	藤木懿	2008	2003~2005 田原台地縁辺。
214 下至切第3遺跡	宮崎県日高郡高鍋町上至切	東九州自動車道建設	ウ	○	下至切第3遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書	同上 第125集	—	2006	日向府の位置を示す西都原台地からツツ川対岸の新
215 西下本庄遺跡	宮崎県東諸県郡下本庄	本庄窯ガランド造成	ウ?	巡方?	西下本庄遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書	第15集	(脚器器分類)山木信夫	1999	1994
216 西下本庄遺跡	宮崎県宮崎郡佐土原町(現宮崎市)大	東九州自動車道建設	ウ	巡方	平田油遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調 査報告書	第29集	川崎辰巳	2000	1996~1997 日向府跡(寺崎遺跡地)の約5km東南
217 平田油遺跡	字上島字平田	九州新幹線建設	ウ	巡方	豊野(?)窯跡・南風病院女子 寮建設に伴う調査(文化財発掘調 査報告書)	県立病院会南風病院	—	—	1978	—
218 豊野窯跡	鹿児島県鹿児島市今水町346番地49号	病院女子寮建設	工	長方硯	大坪遺跡	鹿児島県埋蔵文化財センター発掘 査報告書	第79集	東利幸ほか	2005	1999~2001 波板状遺構など発見
219 大坪遺跡	鹿児島県出水市美原町	九州新幹線建設	ウ	○	—	—	—	—	—	—
220 京田遺跡	鹿児島県薩摩川内市中郷町京田	史跡整備	ア 馬	風字硯	薩摩国府跡・國分寺跡	鹿児島県教育委員会	—	小田富士雄ほか	1975	—
221 宮の脇遺跡	鹿児島県肝属郡肝付町(旧高山町)荒	九州新幹線建設	ウ	猿面硯	—	鹿児島県埋蔵文化財センター発掘 査報告書	第81集	川口雅之・山元廣美子	2005	2000~2001 郡司・大領麻公(が田)を差し押す旨の木簡出土。市 内西・平野跡から銅鏡(方鏡)出土。県83集(983)
222 波見遺跡	鹿児島県鹿児島市(現山之庄)	—	?	風字硯	丸瓶	鹿児島県立埋蔵文化財センター発 掘査報告書	第80集	宮田栄二	2005	1999~2001 連構・集中部含め、銅鏡脚部(?)の則本(23枚)の古代堅 六建物、南宮付の2~3間以上の堅立柱建物あり。
223 広津田城跡遺跡	鹿児島県川内市東大小路町番付近	九州新幹線建設	イ	鳳字硯	大島遺跡	鹿児島県埋蔵文化財センター発 掘査報告書	第4集	飼製丸瓶出土。鹿児島県遺跡分布地図(オンライン版)で は早山遺跡と統合。	1986	—
224 高森遺跡	鹿児島県曾於市財部町南高	東九州自動車道建設	イ	巡方	九義岡遺跡・崩場遺跡・高築遺跡	鹿児島県埋蔵文化財センター発 掘査報告書	71	山崎謙之・松田朝由	2004	2000 依の可能性を高める。官道支路の機能を報告者は 指摘



第4図 九州内古代特殊遺物出土遺跡分布図